

責任感と帰属意識が大学生の交際費に与える影響について

著者 中塚雅恵（慶應義塾大学）
長嶋彩香（慶應義塾大学）
柴田直幸（慶應義塾大学）
小田川聖哉（慶應義塾大学）

要約

本稿ではアンケート調査を通じて、責任感と帰属意識という観点から、それぞれの所属する共同体をどう捉えているのかについて分析した。また、所属する共同体の交流の場としての飲み会についての現状も調査し、両者の相関について調べた。本稿から、「大学生の飲み会への参加」は共同体に対する「帰属意識」と「責任感」の高さが要因としてあると検証された。また「大学生の飲み会への参加」は「飲酒に対する嗜好性」にかかわらず決定されることもわかった。

JEL分類番号：

D03 Z10

キーワード：

共同体,責任感,帰属意識,交際費,

1. 研究目的

近年、大学生の飲酒に関する不祥事が取り上げられることが増え、学生の飲酒に否定的なイメージを抱く風潮が強まっている。社会人になれば「付き合い」などで参加せざるをえない酒の席があり、参加が義務付けられる状況も頻繁に訪れる。しかし一方で、大学生の飲み会にはそのような義務はない。それにも関わらず、なぜ大学生は飲み会に参加するのだろうか。そこには古くから我が国に続く、共同体を重んじる世界観が影響しているためではないかと考えた。そこで共同体を重んじることがどのように飲み会の参加行動に繋がっていくのかを検討するうえで、共同体意識の中の責任感と帰属意識という二つの世界観を取り上げた。この責任感と帰属意識が強い人ほど、大学生の期間に時間やお金をより多く他者との交流にかけるだろうと仮説を立て、その証明のためアンケート調査を通して分析した。

本研究では、責任感と帰属意識という観点から共同体を重んじる世界観とその世界観を持つ大学生の交際費の関係を明らかにし、大学時代における交流の意義を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

サークルや学生団体に所属している大学生を対象に、我々が作成したアンケートをLINE、Facebookを用いて拡散した。(アンケート内容は下記付録参照)。その結果、128名の回答を得た。アンケート項目は、責任感を測る質問1~4、帰属意識を測る質問5~8(説明関数)、また飲酒に対する嗜好性を表す質問9~11、最後に交際費を示す質問12、13(被説明関数)と性別の合計14の設問からなる。責任感を測る質問と交際費を示す質問から回答を数値化し、回帰分析を行うことで、それらの相関を調べた。帰属意識と交際費に関して、また飲酒への嗜好性と交際費に関しても同様に回帰分析を用いた。

LINEとはパソコンやスマートフォン等の電子機器で使用できるコミュニケーションアプリであり、インストールされている機体同士で通話やチャットが可能である。現在、大学生の主要な通信手段となっていること、また既述の条件に当てはまる人物に限定してアンケートを実施できることからこの方法を利用した。

Facebookは個人プロフィールの作成や友人登録を通して幅広くネットワークを広げられるアプリである。インターネット上でコミュニケーションを取り合えるツールであり、一度に様々な多くの相手にコンタクトできることから、アンケートに利用した。

3. 研究結果

アンケートの回答をもとに、回帰分析を行った。

表1：回帰分析

	Q1		Q2		Q3		Q4	
	傾き	有意水準	傾き	有意水準	傾き	有意水準	傾き	有意水準
Q12	0.857752	55%	0.735725	92% *	0.724636	96% ***	0.857143	68%
Q13	2.241372	95% ***	2.317678	87%	2.105688	96% ***	2.878723	74%

	Q 5		Q 6		Q 7		Q 8	
	傾き	有意水準	傾き	有意水準	傾き	有意水準	傾き	有意水準
Q12	0.675615	95%*	0.548387	99%***	0.83663 6	61%	0.72080 5	90% *
Q13	2.38122	82%	2.548301	70%	1.877836	99%***	2.241134	90% *
	Q 9		Q10		Q1 1			
	傾き	有意水準	傾き	有意水準	傾き	有意水準		
Q12	0.851852	81%	0.92307 7	31%	0.9	33%		
Q13	3.312245	47%	3.101613	27%	3.28030 3	43%		

責任感について

説明変数：Q 1“あなたは次の中でどの立場になることが多いですか”と被説明変数：Q13“1ヶ月の食費のうち何割を飲み会代に使用しますか”の間で、有意な相関が見られた。説明変数：Q2“サークルなどの団体に所属している以上、そのメンバー一人一人に果たすべき責任があるとおもいますか”は被説明変数：Q12“この1ヶ月のうち回数の多かったのはどちらですか”との間で、有意な相関が見られた。説明変数：Q3“所属団体の練習や会議において、自分が欠席することで団体に迷惑がかかるとおもいますか”は被説明変数：Q12、Q13の両方と有意な相関が見られた。説明変数：Q4“前々から、友達と会う約束をしていた日に、所属する団体にトラブルが発生しました。団体からすぐに来てほしいといわれたあなたは次のうちどちらの行動をとりますか”と被説明変数：Q12、Q13との間に有意な相関は見られなかった。責任感が強い人間ほど、飲み会に参加していることがわかった。Q1とQ12で相関が見られず、Q2とQ12、Q3とQ12にそれぞれ相関関係が見られた。このことから役職に関わらず責任感を持っている人間がおり、彼らは積極的に飲み会に参加していると考えられる。

帰属意識について

説明変数：Q5“親が老いたら、子供が親の面倒を見るべきだと思いますか”と被説明変数：Q12の間で、有意な相関が見られた。説明変数：Q6“所属している団体を卒業した後も、その団体と交流を持ちたいと思いますか”と被説明変数：Q12の間で、有意な相関が見られた。説明変数：Q7“あるコミュニティに所属している以上、そのコミュニティが負う過去の問題には責任があると思いますか”と被説明変数：Q13の間で、有意な相関が見られた。説明変数：Q8“あなたは所属する団体の一員であることを誇りに思いますか”は被説明変数：Q12、Q13の両方と有意な相関が見られた。Q7とQ12で相関関係が見られず、Q5とQ12、Q6とQ12、Q8とQ12でそれぞれ相関関係が見られたことから、自分が所属するコミュニティの過去に対して帰属意識がないと考えることができる。

飲酒に関して

説明変数：Q9“あなたはお酒の席は好きですか”と被説明変数：Q12、Q13との間に有意な相関は

見られなかった。説明変数：Q10“あなたはお酒が好きですか”と被説明変数：Q12、Q13との間に有意な相関は見られなかった。説明変数：Q11“あなたはお酒に強い方だと思いますか”と被説明変数：Q12、Q13との間に有意な相関は見られなかった。このことから、飲み会が好きだから飲み会に行く、お酒が好きだから飲み会に行く、お酒が強いから飲み会に行くということが否定された。すなわち、飲み会に参加する動機として、お酒の好き嫌い・飲み会の好き嫌い・お酒への耐性はあまり関係ないということである。

4. 結論

今回の分析を通して、責任感と帰属意識という観点から共同体を重んじる世界観を持つ大学生ほど、交際費により大きな割合を支出し、同世代の交流を重視するという仮説と整合的な結果を得ることができた。また、大学生の飲み会の参加がお酒を飲むことを目的としているのではないことがわかり、実際は所属している共同体への思いや責任から飲み会への参加という行動が生まれていることが分かった。このことから大学生にとって飲み会の場が共同体のつながりを強める場として有効活用されていることが分かった。

昨今の大学生の飲み会は度を越えた行為が目立ち、印象も良くないことが多いが、その根底にある動機としては共同体の結束や共同体への貢献であるため、節度を保ち飲み会の場を持っていくことは共同体の活性化へとつながることが期待される。

今後は分析をさらに進め、個々の因果関係を詳しく検討していくとともに、調査として質問の仕方などを見直し、研究全体としてより洗練していきたい。

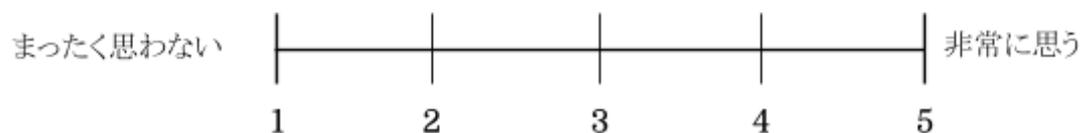
付録 質問票

性別：(男性 ・ 女性)

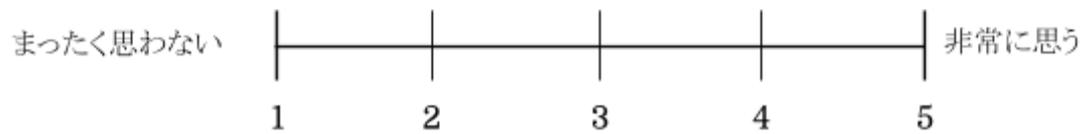
Q1: あなたは次の中で、どの立場になることが多いですか。

- リーダー・代表
- 副リーダー・副代表
- その他役職
- 一般メンバー

Q2: サークルなどの団体に所属する以上、そのメンバー1人1人に果たすべき責任があると思いますか。



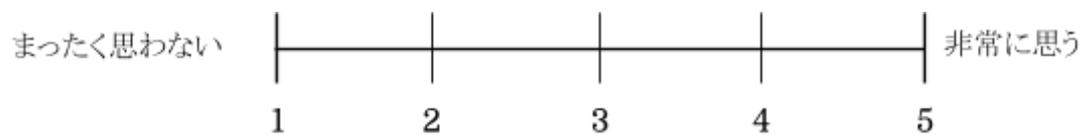
Q3: 所属団体の練習や会議において、自分が欠席することで団体に迷惑がかかると思いますか。



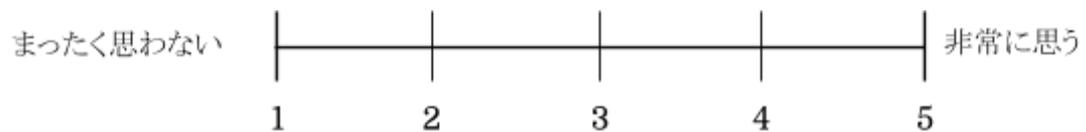
Q4: 前々から、友達と会う約束をしていた日に、所属する団体にトラブルが発生しました。団体からすぐに来てほしいといわれたあなたは次のうちどちらの行動をとりますか。

- 友達との約束を断って、団体に駆けつける。
- 友達に会いに行く。

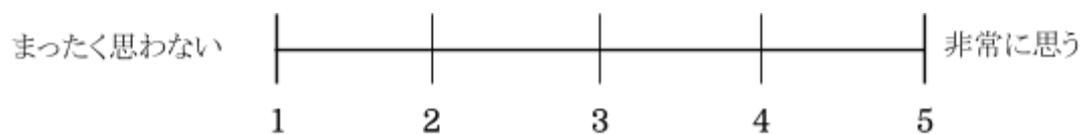
Q5: 親が老いたら、子供が親の面倒を見るべきだと思いますか。



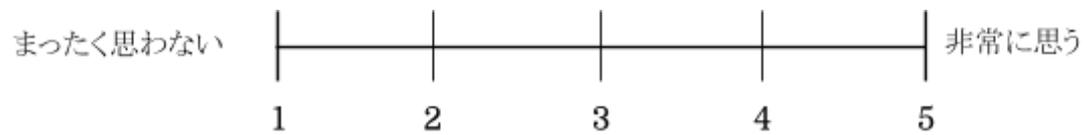
Q6: 所属している団体を卒業した後も、その団体と交流を持ちたいと思いますか。



Q7: あるコミュニティに所属している以上、そのコミュニティが負う過去の問題には責任があると思いますか。



Q8: あなたは所属する団体の一員であることを誇りに思いますか。



Q9: あなたはお酒の席は好きですか。

(はい ・ いいえ)

Q10: あなたはお酒が好きですか

(はい ・ いいえ)

Q11: あなたはお酒に強い方だと思いますか。

(はい ・ いいえ)

Q12: この1か月において、回数が多かったのはどちらですか。

- 一人でお酒を飲む回数。
- 二人以上でお酒を飲む回数。

Q13: 1か月の食費のうち何割を飲み会代に使用しますか。

割

以上

引用文献

大垣昌夫,田中沙織,2014,行動経済学入門,有斐閣,東京。

西條辰義,清水和巳,2014,実験が切り開く21世紀の社会科学,勁草書房,東京。